



# 今富っ子

小浜市立今富小学校  
平成31年2月5日  
= 2 月 号 =

## 下校時の見守り活動 一緒に考えませんか？



本校は、火・水・金曜日の週三日、下校ボランティアのみなさんにお世話になり、低学年が下校しています。雨や雪が降る日も風が吹く日も、酷暑の夏も極寒の冬も、低学年が下校する午後三時一五分には学校へ来てくださり、低学年の子ども達と一緒に、それぞれの地区まで歩いて見守り活動をしていただいております。

昨年度、中央教育審議会がまとめた『学校における働き方改革に対する緊急対策』では、基本的には学校以外が担うべき業務の中に、「登下校に関する対応」が示されました。

今富地区では、それ以前の平成一六年に、当時の生き生きまちづくり委員会と老人会が中心となり、下校ボランティアを結成し、見守り活動を始めてくださいました。地域の方や低学年の保護者の方のご厚意で、一五年も続いております。今年も三五名のみなさんに登録をいただき、見守り活動をしていただいております。

平成一九年に、小浜市教育委員会表彰を受賞され、昨年は日本生命財団より顕彰を受けられるなど、全国でも認められる活動となっております。

おそろしく、低学年の下校時に、これだけ手厚くボランティアの方についていただけているのは、今富小学校だけではないかと思っております。当然の前のようにお世話になっていますが、本当にありがとうございます。

しかし、一五年が経過し、結成当時からお世話になっている地域ボランティアの方も高齢となり、引退される方が増えてきました。登録いただいている地域ボランティアの方にお世話になって、今まで通りの見守り活動を続けていくことは、たいへん厳しい状況になっております。このことについては、PTA総会をはじめ学校だよりでもお伝えしております。

いよいよ四月から、見守り活動ができない可能性のある地区が出てきました。どのような対応をしていくとよいのか、該当地区のPTA地区委員に状況をお伝えし、PTA三役も交えて話し合いを持ちました。今回は、地域の方が、見守り活動にご協力いただけることになり、事なきを得ました。

しかし、数年後には、同じような課題に、どの地区でも直面することになります。その時、みなさんの地区はどのような対応をされるでしょうか？

今から、低学年下校時の見守り活動を続けていくか、それとも止めるか、続けていくのであればどのような続けていくか、一〇年先、二〇年先を見据えて、各地区で話し合う機会を持っていたら幸いです。地区によって実情は異なると思いますので、それぞれの地区に感じて、考えていただけるとありがたいです。

よろしくお願ひします。

ご意見・ご感想をお聞かせください。 ----- <キリトリセン> -----

お名前 ( )

---



---



---

# 校長の 独り言



先日は、学習発表会にお越しいただき、ありがとうございます。今年は開催方法を変更し、子ども達が一堂に会しての学習発表会を行いました。その理由は、「子どもがモデルとなる学校」づくりを考えたいとき、発表内容を十分に理解できなくても、高学年の発表する姿を低学年に見せることで、いろいろなモデルを見ることができ、高学年になったときの具体的なイメージが持てると思ったからです。

一昨年昨年と、学習発表会を参観していただいた方から、「低・中・高学年に分かれての開催方法を変更して欲しい」というご意見もあり、ちょうどよかったなと思っております。

同じように、秋に開催したマラソン大会は、グラウンドに戻ってきたらトラックを一周走ってゴールとなるように、昨年コースを変更しました。その理由は、「子どもがモデルとなる学校」づくりを考えたいとき、トラックを走ってゴールへ向かう仲間に、高学年が中心となって応援する姿を低学年に見せることで、低学年のよきモデルとなると考えたからです。

一昨年、マラソン大会の応援に来ていただいた方から、「誰がゴールするか分かるように、グラウンドでのコース設定を工夫して欲しい」というご意見があり、ちょうどよかったなと思っております。

みなさんからのご意見と、学校のめざしていることが一致する場合には、前年のやり方にとらわれず、変更をしていきたいなあと思っています。

ただ、今回の学習発表会、発表に向けて四年生の子も達もがんばって取り組んでいただけに、当日、みなさんに見ていただけなかったことが、とても残念です。

ご案内させていただいたように、四年生の発表会を二月二日に開催しますので、是非、参観ください。



『アオモジ（青文字）』です。枝が青みがかった緑色をしていることから名付けられたそうです。噛むと少し苦みがありますが、高級つまようじとして利用されています。

『アオモジ』の花言葉は「友人が多い」です。一つの枝にたくさんの花を咲かせることからつけられました。子ども達には、ネット上の友人ではなく、直接、顔を合わせて、本音で話ができる友人を、一人でも多く、つくって欲しいなと思います。



文責；山名 聡